

しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	松江市立城北小学校
学 校 長 名	瀧 野 眞 理 子 印
記 載 責 任 者 名	勝 田 知 栄 子
連 絡 先 電 話 番 号	(0 8 5 2) 2 1 - 4 9 4 4

() 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1				有 ・ 無	
	2				有 ・ 無	
3				有 ・ 無		
4				有 ・ 無		
(○) 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 (有) ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1	図鑑の使い方	1	学活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案（本時の展開のみ） ・ 児童ワークシート・写真（コピー） ・ 自動車くらべ（児童作品・コピー） ・ 本のリスト 	1 1 1 1
2	宍道湖ってすてき	3	総合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案（本時ブックトークのみ） ・ 児童ワークシート・写真（コピー） ・ 本のリスト 	1 2 1	
3	年鑑を使おう	5	学活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案（本時の展開のみ） ・ 児童ワークシート・情報カード（コピー） ・ 写真 	1 2 1	
4	宮沢賢治の作品を読もう	6	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案（指導計画のみ） ・ 児童ワークシート（コピー） ・ 写真 	1 2 1	

※ 読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 松江市立城北小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

() 読書活動部門

(○) 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- ・ 学習のねらいを達成したり、児童の学びを広げたりするために、学校図書館を効果的に活用する。
- ・ 6年間を見通して、計画的に児童の情報活用能力を培う。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

1. 図書館・情報活用学習年間計画にそった取り組みをすすめる。
 - ・ 各教科の学習の狙いに沿って、また他教科との関連を図りながら、図書館を有効に活用していく。その取り組みの中で、6年間を見通して情報を活用するためのスキルを身につけたり、課題解決のひとつの手段として図書館を有効に活用したりする力を育てる。

2. 学校図書館を活用した授業実践

(1) 1年生の実践

学級活動「図鑑の使い方」



国語科「自動車くらべ」

生活科の学習と関連づけて、図鑑の使い方についての指導を学級担任、司書教諭、学校図書館司書とのT.Tで実施。

同じ種類の図鑑を2人で1冊使えるように準備。使用した掲示物やワークシートは図鑑とリンクさせてカラー印刷にして、児童が調べやすいように工夫した。

「自動車くらべ」の学習の後、図鑑や図書資料を活用して調べ、「自動車くらべ」ずかんを一人一人が作成した。使用する本は、担任と学校図書館司書で複数の本の中から選んでリストを作成した。

(2) 3年生の実践

総合的な学習の時間

「宍道湖ってすてき」

導入で「宍道湖博士になろう」というテーマでブックトークを実施。自然、生き物、特産品など様々な内容で宍道湖について紹介した。この後、ブックトークの感想やもっと詳しく知りたいことなどを取り上げ、松江についての調べ学習の課題作りに生かしていった。

調べるにあたってよく活用していたのが、昨年度までの3年生が同じ学習の中で作成したガイドブックやパンフレットである。その他図書資料、インターネット資料等様々な資料を活用して調べ学習をすすめた。

(3) 5年生の実践

学級活動「年鑑を使おう」



国語科「人とももの
つきあい方」

社会科の学習で農業、水産業等の統計資料を扱うことが多くなるので1学期に実施した。2人が1冊使えるように準備。ワークシートに記入しながら、使い方や資料の読み取り方について学んだ。年鑑について学んだ後は、他の教科の調べ学習でも図書資料の選択肢の一つとして活用するようになった。

ゴミの量、高齢者の人口が多い地域等の統計データを調べるときに年鑑を活用していた。

(4) 6年生の実践

国語科「宮沢賢治の
作品を読もう」

教科書単元「やまなし」の学習の前後に宮沢賢治の作品を読む場を設定。一人一人が同じ本をもち同じ場で読むという「集団読書」を取り入れた。個人ではなかなか読み切れない児童への場の保障、読後に感想を話し合うことで読みを深めるということをねらいにおいた。県立図書館の集団読書用の本を借用した。

必要なことを読み取るためには、まず「読む」場と「読める」状況をつくるのが大切である。「集団読書」は同じ本を同じ場で読むので、感想を伝える側は話し易く、聴く側も話す内容をつかみやすいという点で効果的であった。

また、全員が複数の作品にふれたことで、作者の思いを考える話し合いに自分の意見をもつてのぞむことができ、話し合いを深めることができた。

4 実践の成果

- ・ 年度初めに、学校図書館活用年間計画を各学年で検討。それをもとに学習の内容、時期、指導者（担任、司書教諭、学校図書館司書）の役割分担が確認でき、国語の時間に位置づけている「図書の時間」を有効に活用できた。
- ・ これまでの実践の資料が学年ごとにまとめられており、それを活用して担任が中心となり図書館を活用したスキル学習やブックトークを実施する場面が増えた。
- ・ 学校図書館活用年間計画に沿って学校図書館を活用した授業を計画的に行うことで、6年間を通して情報活用能力を身につけていくということについて、新任の先生方の理解が得られ実践を続けていくことができた。
- ・ 学校図書館活用年間計画に沿った実践も5年目になるが、1、2年生で目次や索引を使った図鑑の指導をきちんとしておく、その後の百科事典、年鑑等の指導が児童に身につけやすいということが実践を通じ実感できた。
- ・ 6年生の集団読書用に借りてきた本を4年生が活用し、児童の読書の様子を知らせたり、感想を伝えあったりと担任同士で交流することができた。低学年でも集団読書用図書を使い、聞かせ読みをすることで、十分に字が読めず本を読むのが苦手の児童に意欲を持たせることができた。

※A4判で1～2枚にまとめる。